



NFIのパイロット調査の様子

成果3: 国レベルのREDD+支援

REDD+を実施するための国レベルでの戦略や制度を構築し、その管理やコーディネーションに係る能力を強化するコンポーネントです。多様な開発パートナーと連携しながら国家REDD+戦略の形成、国家REDD+タスクフォースや技術作業部会の運営、わが国が提唱する二国間クレジット制度(JCM)の導入等を支援します。これにより、ラオスのREDD+に対する準備および実施、さらにはその成果に対する炭素クレジットの獲得や支払いに向けた前提条件が準備されます。

<成果3の支援内容>

- 国レベルのREDD+政策・制度への技術的助言
- MONRE-DFRMとMAF-DOFによる国REDD+調整機能向上
- JCM-REDD+の進展に合わせた、ラオスへの導入



相手国機関の職員とのREDD+政策に関する検討会

成果4: ルアンプラパン県のREDD+準備支援

ルアンプラパン県はラオス北部の山岳地帯にあり、焼畑耕作やインフラ開発による森林の減少・劣化が深刻です。このような課題に対応するべく、県レベルでのREDD+実施準備を支援するコンポーネントです。REDD+を実施するために必要な体制や森林政策、森林モニタリング等を支援することで、同県がREDD+にいち早く参加できる条件を整えます。また、過去のPAREDDプロジェクトで開発された、住民参加型の森林減少抑制手法(PAREDDアプローチ)の拡大に向けた普及基盤の強化も支援します。

<成果4の支援内容>

- 県REDD+実施枠組みの構築
- REDD+に係る優先政策のパイロット
- 県森林モニタリングの構築・実施
- 国レベルと県レベルのREDD+の協調促進
- 「PAREDDアプローチ」の県内他地域への普及基盤の強化



ルアンプラパンの焼畑耕作地

ラオス国
持続可能な森林管理及び
REDD+支援プロジェクト



Project Office,
Kouvieng Street, Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536

Ministry of Natural Resources and
Environment (MONRE)
Ministry of Agriculture and Forestry (MAF)
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

1. プロジェクトの背景・目的

1940年代には70%以上あったラオス国の森林率は水力発電、鉱山開発、プランテーション開発等の産業開発や人口増加・経済発展に伴う農地拡大等による土地利用変化によって2010年には40%まで低下しました。この急速な森林率の減少を受けて、ラオス政府は森林率70%の回復を目標とした「森林戦略2020」を策定するとともに、REDD+を有効な手段として捉え、2011年に国家REDD+タスクフォースを設置するなど、森林の保全と回復に取り組んでいます。

一方で、2011年の省庁再編に伴い、保護林・保全林の管理は天然資源環境省、生産林は農林省に所掌が分割された結果、両省庁間の所掌業務の混乱や人材配置のアンバランスの問題が指摘されています。また、県・郡レベルにおける森林管理能力の強化も急務となっています。

さらに、REDD+実施のために必要な衛星画像解析等に基づく精度の高い森林資源情報の整備が不可欠であるものの、ラオス政府の森林資源情報は森林政策やREDD+に的確に利用するためにはさらなる改善が必要な他、それら情報を集積・分析する人材が不足しているという課題もあります。

こうした背景を受け、当プロジェクトはラオスの森林セクターにおける政策改善とREDD+活用戦略の明確化を中央及びパイロット県での取り組みを通じて進めると同時に、それらに必要な森林資源情報の一層の充実を図ることを目的としています。それによりラオスの持続可能な森林管理の促進が期待されます。

REDD+ (Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation, Conservation of Forest Carbon Stocks, Sustainable Management of Forest, Enhancement of Forest Carbon Stocks in Developing Countries) とは途上国での森林減少・劣化による温室効果ガスの排出を緩和することに対する経済的なインセンティブを国際社会が提供する仕組みのことです。

2. プロジェクトの概要

プロジェクト期間：
2015年11月～2020年10月

相手国機関：
天然資源環境省森林資源管理局 (MONRE-DFRM)
農林省森林局 (MAF-DOF)

プロジェクトサイト：
首都ヴィエンチャン
ルアンプラバン県



ルアンプラバン県で没収された違法伐採材

3. プロジェクト目標と4つの成果

プロジェクト目標

ラオスの森林セクターにおけるREDD+活用戦略の明確化と、森林資源情報の一層の充実を図ることによって、ラオスの中央および地方政府においてREDD+を担当する機関及び人材の持続的可能な森林経営に係る能力の強化を図る。

成果1: 中央政府の森林セクター支援

中央政府の森林セクターの政策策定や実施、コーディネーションの促進を支援するコンポーネントです。「森林戦略2020」は今後における中長期的な戦略として、現状に即した改定の必要性が指摘されています。他にも森林法改定などが議論の最中です。成果1では中央政府のカウンターパートのこれら政策に関する能力向上を図るとともに、セクターのコーディネーション促進を通じて、それら政策の実現を支援します。これにより、持続的な森林経営に必要な基盤が強化されます。

<成果1の支援内容>

- ラオスの森林政策や目標を定めた「森林戦略2020」の改定および他の重要政策の形成
- 森林政策策定の能力を向上させるための研修の実施や国際会議等への参加
- 森林セクターのコーディネーション

成果2: REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

国家森林モニタリングシステム(NFMS)を中核とした森林資源情報整備を通じて、REDD+実施の結果である温室効果ガスの排出削減・吸収増加量の結果を把握するコンポーネントです。成果2では気候変動枠組条約(UNFCCC)をはじめとする国際的なREDD+の要求事項を満たす形でNFI、FREL/FRL、MRV、NFMSの技術および制度の構築を支援します。また、同分野におけるわが国の過去の協力及び成果のさらなる活用も目指します。これらを通じて得られる結果は、ラオスが国際社会にREDD+の実施状況および結果を報告するための基本情報となります。

<成果2の支援内容>

- 森林区分図2015および2018作成
- 全国レベルの森林調査である国家森林インベントリ(NFI)の実施
- 森林からの温室効果ガス排出・吸収量を予測した森林参照排出レベル/森林参照レベル(FREL/FRL)の設定
- 排出削減成果を測定、報告、検証するための仕組みであるMRVの構築
- 国家森林モニタリングシステム(NFMS)の構築および運用